(地域施策推進事業)

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費(円)	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業効果(成果・満足度)	自己評価
中高生の「将来設計」支援事業	総務企画部	鈴木 英一	地域企画課	企画・ゆざわおがら売込み班	0183-73-8191	若者の地元回帰、定着を促進するため、地元企業の魅力や強みを学び、故郷に対する誇りや愛着と職業観を形成する機会を提供する。	402,724	①中学生向けしごと博覧会 新型コロナウイルスの影響により開催できず、構成・デザインを工夫した資料集を制作し、生徒・教諭等へ配付した。配布先:管内8中学校ほかへ合計700部 ②高校生向け企業博覧会 日時:令和2年12月12日 会場:湯沢グランドホテル 参加者:湯沢・湯沢翔北・湯沢翔北雄勝・羽後・増田 高校の1~2年生236名 参加企業:18社	県	管内在住の中学生、管内外の高校生、管内外の企業	令和2年4月1日	①中学生向けしごと博覧会 配付した資料集を元に、学校単位で職場体験学習が開催された。 ②高校生向け企業博覧会 出展企業の熱意あるプレゼンテーションにより、地元企業の魅力や強みを学び、故郷に対する誇りや愛着と職業観を形成する機会を提供することができた。 学校関係者、行政関係者に対しても地元企業の魅力を理解してもらう機会となった。	・中高生の興味を惹き付ける、分かりやすい説明と工夫が必要である。 ・出展企業が固定化しないよう、新規出展企業の開拓が必要である。 ・企業、学生が一同に会する形となるため、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を徹底して開催する必要がある。
											令和3年5月18日		
つながる「ふるさと」、オガチの底デカラプロジェクト	総務企画部	鈴木 英一	地域企画課	企画・ゆざわおがら売込み班	0183-73-8191	地元企業の代表者に、地元の産業・企業・働く人物の魅力を再認識してもらう機会を提供。 活動をを通して認識した地域の魅力、誇りを、どのようにして子どもや若者に伝えて行くか事業を通して検討し、地元企業の「若者の地元定着」に対する機運を高める。	1,100,613	①ジバゼミの開催 湯沢・雄勝地域の地場産業等の連携体制構築に向け相互理解の場を設けた。新型コロナウイルス感染症対策のため、少人数での開催とし、後日、レポートを共有した。 第1回:令和2年10月7日 第2回:令和2年11月5日 ②ジバカードの作製 若者らに地場産業等の特徴等を伝達するためのツールとして作製。 期間:令和2年11月~令和3年3月 作製種類:6種類(2事業所分) ③かるた読み札の作製 子ども達がジバカードをより身近なものとして活用できるよう、カルタとして使用するための読み札を作製。 期間:令和2年11月~令和3年3月 ④カードの配布 完成したジバカードと読み札を管内小中学校に配付し活用してもらう。	県	地場産業等の代表者や従事者ら	令和2年4月1日	①ジバゼミ ・参加者は延べ10名 ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり少人数での開催となった。 ・参加者からは「人数が少ない分マンツーマンで話をするのが大変勉強になった」等の感想が寄せられ、参加者の満足度は高かった。 ②、③、④ジバカード ・2社6種類のカードと、かるたとして活用できるように読み札を作製。 ・完成したジバカードと読み札をセットにして管内小中学校に配付した。	・開催を希望する企業でのジバゼミが一通り終了し、これまで作製した46枚のカードをかるたとして活用できるようになった。 ・地元企業の魅力を再認識し、地域の若者の地元定着につなげようとする機運を高めることに一定の成果があった。 ・今後は、より直接的に企業の人材確保を支援する取組を実施し、地元企業への就職者数増加に繋げていく対策も必要である。
											令和3年5月18日		

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費(円)	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業効果(成果・満足度)	自己評価
雄勝の農業複合化・多角化レベルアップ支援事業	農林部	齋藤 辰嗣	農業振興普及課	—	0183-73-5180	本県の課題である「米依存からの脱却」を進めるため、大規模園芸や6次産業化への取り組みを支援し、相対的に「米への依存度を低減」する必要がある。 この事業では、大規模園芸団地による野菜・花き生産の安定・収益確保に必要な技術の習得や、労働力管理の知識、若手農業者等の複合化支援、女性農業者等の直売活動や加工技術や商品づくりのレベルアップを推進する。	188,623	①農業経営視察 令和2年8月25日 トマトメカ団地(農)下黒土アグリ、JA秋田おぼこ園芸振興拠点センター16名参加 ②花きセミナー 令和2年11月25日 湯沢文化会館 花き流通最前線「産地予冷とコロナをキーとした産地戦略」188名参加 ③女性起業レベルアップ研修 令和2年12月2日 湯沢ロイヤルホテル「食品衛生法の一部改正について」52名参加	県	管内農業者ほか	令和2年4月1日 令和3年5月18日	①大規模トマトメカ団地の管理作業や作業員の運営方法を視察し、管内メカ団地の今後の課題が整理できたため満足度は高かった。 ②花きセミナーでは管内で実施されている産地予冷技術の国内における先進性が理解され、技術の普及に弾みがあった。 ③食品衛生法の改正に伴う研修を行ったことにより、加工所の改築やそれに伴う補助事業の活用が理解が進み、一部加工所で事業を活用した改築の相談が多くなっている。	・視察研修では先行事例の現状について現地で説明を受けたことで、参加者に具体的な内容が伝わり、理解度が高かった。 ・花きの日持ちの重要性や管内の取り組みの先進性について、参加者の理解度が高まり、今後の普及に弾みがあった。 ・令和3年6月法施行に向けて、事前研修を行ったことで、法改正の理解度が高まった。また、事業者と保健所とのつながりを創出できた。 ・新型コロナウイルスの影響で県外へ出向いた研修や情報収集が困難と思われるため、支援手法を含めて内容を検討しながら進める。
「介護・福祉のおしごとウェルカム」プログラム	福祉環境部	南園 智人	企画福祉課	調整・障害者班	0183-73-6155	介護・福祉の現場を支える担い手の減少により、今後、管内において人材不足が深刻化する恐れがあることから、幅広い世代(小中高生から高齢者まで)を対象とした意識啓発により介護福祉人材の裾野を拡大する必要がある。 併せて、介護事業者の労働環境改善意識の向上により、介護人材の定着促進を図る。	135,000	①高校生向け「体感から福祉を学ぶ学習会」 ・7/10「プレ学習会」 参加高校生29名 ・8/3「事前学習会」8/4「現地学習会」8/5「振り返りの会」 参加高校生1名 ②「湯沢翔北高校専攻科オープンキャンパス」&「介護ロボットミニ展示見学体験会」 ・9/8 参加者87名(生徒・学生、教員、事業所等職員)	②:湯沢翔北高等学校との共催、その他は県	管内高校生、教員、事業所職員等	令和2年4月1日 令和3年5月18日	・「体験」を取り入れた結果、イメージがより具体的となり、参加者アンケート結果でも「職業選択や進路指導の参考になった」「小中学生も参加対象としては」「もっと地域でPRすべき」などと主体的な意見を引き出すことが出来た。 ・②については、参加者全体の9割超から事業の目的やねらいについて「十分理解できた」「ほぼ理解できた」とする回答が得られる結果となった。	・介護福祉分野の仕事に興味を持つきっかけづくりから、次のステップ(職業選択)に結びつけるための仕掛けをどう盛り込むかを検討する必要がある。 ・保護者や地域社会に対するアプローチ方法、地域一体となった機運醸成につながるための方策について、関係機関(学校、企業等)との協議を重ねながら、次年度以降は更なる事業の充実を図る。

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費(円)	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業効果(成果・満足度)	自己評価
県際・県南地域振興局連携等による売込み強化事業	総務企画部	鈴木 英一	地域企画課	企画・ゆざわおがち売込み班	0183-73-8191	隣県地域(山形県最上地域・宮城県大崎地域)及び県南3地域振興局と連携して、スケールメリットを生かした「県内外で開催する観光物産展」「広域的な観光PR」などを実施し、湯沢雄勝地域の物産・観光の売り込み強化を図る。	606,035	<p>1 山形県最上地域、宮城県大崎地域との連携事業</p> <p>①オンラインショップを利用した特産品の販売 実施期間:11月1日(日)~1月31日(日) 出店事業者数:21者46品目(秋田県9者16品目) ②県際地域を周遊するスタンプラリーの開催 実施期間:9月17日(木)~11月30日(月) 対象施設数:計27件(各県9施設) 応募者数:133名 ③県際地域をPRする観光ガイドブックの作成 部数:20,000部(各県5,000部)+次年度イベント用5,000部 3月29日(月)納品予定 ④観光モデルコースの作成 令和3年度に実施する旅行エージェントへの売込みに向けて検討。</p> <p>2 県南3地域振興局連携</p> <p>①仙台卸町ふれあい市での物産販売と観光PR 本体イベント中止 ②県南地域の冬まつりをPRするSNSキャンペーン Twitterを活用し、次年度の来訪に向けた、県南の冬まつりのPRを行った。 ※主担当:仙北地域振興局</p>	県	宮城・山形・秋田の県際地域を来訪する観光客、管内の観光・物産関係事業者	令和2年4月1日	<p>・WEB版「東北のへそ」三県交流まつり 売上金額:671,887円(うち秋田県分239,742円) ・「東北のへそ」名物発見スタンプラリーのアンケート結果では、「楽しく周遊できた」「対象施設を増やして欲しい」などの意見が寄せられた。 ・県南3地域振興局連携では、例年仙台市の「卸町ふれあい市」で実施していた観光PRイベントや、県南冬まつりスタンプラリーが中止となったが、代替事業として、県南の冬まつりをPRするSNSキャンペーンを実施した。 (景品:1万円相当の仙北地域の特産品3本、2千円相当の平鹿地域の特産品2本、2千円相当の雄勝地域の特産品2本)</p>	<p>・隣県地域及び県南3地域振興局と協働し、スケールメリットを活用した取組ができたが、新型コロナウイルスの影響により、事業の内容を変更する必要が生じた。 ・県際連携ではオンラインショップを活用した特産品の販売や、紅葉期の観光客に向け、管内の周遊を促すスタンプラリーを実施するなど、新たな手法を用いたり、規模を縮小しながら当地域のPRができた。 ・県際地域共通の観光ガイドブックの作成や、周遊モデルコースの作成など、次年度以降の誘客に向けた準備を行うことができた。 ・ウィズコロナ・アフターコロナにおける観光需要を見据えた取組を行っていく必要がある。 また、令和3年度は東北DCキャンペーンが開催されることを意識し、SNSや県際地域で作成した共通ガイドブックの活用を通して、情報発信の強化を図りながら関係機関が連携した取組を推進していく。</p>
											令和3年5月18日		